235　副甲状腺機能低下症

□ 新規　□ 更新

**■　基本情報**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **氏名** | | | | | | | |
| 姓(漢字) 　　 　　　 名(漢字)  姓(かな) 　　　　　 名(かな) | | | | | | | |
| **住所** | | | | | | | |
| 郵便番号 住所 | | | | | | | |
| **生年月日等** | | | | | | | |
| 生年月日 | | | 西暦 年 月 日 | | 性別 | 1.男 2.女 | |
| 出生市区町村 | | |  | | | | |
| 出生時氏名（変更のある場合） | | | 姓(漢字) 名(漢字)  姓(かな) 名(かな) | | | | |
| **家族歴** | | | | | | | |
| 近親者の発症者の有無 | | 1.あり 2.なし 3.不明 発症者続柄 1.父 2.母 3.子 4.同胞（男性） 5.同胞（女性）6.祖父（父方）  7.祖母（父方） 8.祖父（母方） 9.祖母（母方）10.いとこ 11.その他（　　　　　　） | | | | | |
| 両親の近親結婚 | | 1.あり 2.なし 3.不明 詳細： | | | | | |
| **発病時の状況** | | | | | | | |
| 発症年月 | 西暦 年 月 | | | | | | |
| **社会保障** | | | | | | | |
| 介護認定 | 1.要介護 2.要支援 3.なし | | | 要介護度 | | | 1 2 3 4 5 |
| **生活状況** | | | | | | | |
| 移動の程度 | 1.歩き回るのに問題はない 2.いくらか問題がある 3.寝たきりである | | | | | | |
| 身の回りの管理 | 1.洗面や着替えに問題はない 2.いくらか問題がある 3.自分でできない | | | | | | |
| ふだんの活動 | 1.問題はない 2.いくらか問題がある 3.行うことができない | | | | | | |
| 痛み／不快感 | 1.ない 2.中程度ある 3.ひどい | | | | | | |
| 不安／ふさぎ込み | 1.問題はない 2.中程度 3.ひどく不安あるいはふさぎ込んでいる | | | | | | |

**■　診断基準に関する事項**

**症状の概要、経過、特記すべき事項など**

|  |
| --- |
|  |

**Ａ．症状**

|  |  |
| --- | --- |
| 1.口周囲や手足などのしびれ、錯感覚 | 1.あり　2.なし 3.不明 |
| 2.テタニー | 1.あり　2.なし 3.不明 |
| 3.全身痙攣 | 1.あり　2.なし 3.不明 |

**Ｂ. 検査所見**

|  |  |
| --- | --- |
| 1.低カルシウム血症、正または高リン血症 | 1.該当　2.非該当 3.不明 |
| 2.eGFR 30 mL/min/1.73 m2以上 | 1.該当　2.非該当 3.不明 |
| 3.Intact PTH 30 pg/mL未満 | 1.該当　2.非該当 3.不明 |

**Ｃ．鑑別診断**

|  |  |
| --- | --- |
| 以下の疾病を鑑別し、全て除外できる。除外できた疾病には☑を記入する。 | 1.全て除外可　2.除外不可 3.不明 |
| □　二次性副甲状腺機能低下症  □頚部手術後　　□放射線照射後　　□悪性腫瘍の浸潤　　□肉芽腫性疾患　　□ヘモクロマトーシス　　□ウィルソン病  □母体の原発性副甲状腺機能亢進症（新生児・一過性）  □　マグネシウム補充により治癒する | |

**＜診断のカテゴリー＞（該当する項目に☑を記入する）**

|  |
| --- |
| □Definite：Ａ.症状のうち１項目以上＋Ｂ.検査所見のうち３項目を満たすもの |
| □Probable：Ｂ.検査所見のうち３項目を満たすもの |
| □Possible：Ｂ.検査所見のうち1.と3.を満たすもの |

**■　検査所見（該当する項目に☑を記入する）**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 測定日　年　　月　　日 | | 測定日の状況□1.治療中　　□2.治療中ではない | | | | |
| 血中アルブミン | g/dL | | | 血中カルシウム | | mg/dL |
| 血中リン | mg/dL | | | 血中マグネシウム | | mg/dL |
| 血中クレアチニン | mg/dL | | |  | |  |
| □intact PTH　または　□whole PTH | | | | pg/mL | | |
| 尿中カルシウム濃度 | | | mg/dL | | □1.蓄尿での検査　　□2.随時尿での検査 | |
| 尿中リン濃度 | | | mg/dL | | □1.蓄尿での検査　　□2.随時尿での検査 | |
| 尿中マグネシウム濃度 | | | mg/dL | | □1.蓄尿での検査　　□2.随時尿での検査 | |
| 尿中クレアチニン濃度 | | | mg/dL | | □1.蓄尿での検査　　□2.随時尿での検査 | |
| 身長 | cm | | | 体重 | | kg |

**■　遺伝学的検査**

|  |  |
| --- | --- |
| 遺伝子検査の実施 | 1.実施　2.未実施 |
| 変異遺伝子の詳細　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | |

**■　治療その他**

|  |  |
| --- | --- |
| 治療 | 1．あり 　2．なし　3．不明 |
| 治療内容（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | |

**■　重症度分類に関する事項（該当する項目に☑を記入する）**

|  |  |
| --- | --- |
| □軽症 | 生化学異常を認めるものの、感覚異常やテタニーなどの症候を認めず、日常生活に支障がない。 |
| □中等症 | 低カルシウム血症を認め、しびれなどの感覚異常を認め、日常生活に支障がある。 |
| □重症 | 低カルシウム血症を認め、テタニーや痙攣などにより、日常生活に著しい支障がある。 |

**■　人工呼吸器に関する事項（使用者のみ記入）**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 使用の有無 | 1.あり | | | | | |
| 開始時期 | 西暦 年 月 | | | 離脱の見込み | | 1.あり 2.なし |
| 種類 | 1.気管切開口を介した人工呼吸器 2.鼻マスク又は顔マスクを介した人工呼吸器 | | | | | |
| 施行状況 | 1.間欠的施行 2.夜間に継続的に施行 3.一日中施行 4 .現在は未施行 | | | | | |
| 生活状況 | 食事  整容  入浴  階段昇降  排便コントロール | □自立 □部分介助 □全介助  □自立 □部分介助/不可能  □自立 □部分介助/不可能  □自立 □部分介助 □不能  □自立 □部分介助 □全介助 | 車椅子とベッド間の移動  トイレ動作  歩行  着替え 排尿コントロール | | □自立 □軽度介助 □部分介助 □全介助 □自立 □部分介助 □全介助  □自立 □軽度介助 □部分介助 □全介助  □自立 □部分介助 □全介助  □自立 □部分介助 □全介助 | |

|  |
| --- |
| 医療機関名  指定医番号 医療機関所在地 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　電話番号 （ ） 医師の氏名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印　　記載年月日：平成 年 月 日　　　　　　　※自筆または押印のこと |

・病名診断に用いる臨床症状、検査所見等に関して、診断基準上に特段の規定がない場合には、いずれの時期のものを用いても差し支えありません。

（ただし、当該疾病の経過を示す臨床症状等であって、確認可能なものに限ります。）

・治療開始後における重症度分類については、適切な医学的管理の下で治療が行われている状態で、直近６ヵ月間で最も悪い状態を記載してください。

・診断基準、重症度分類については、「指定難病に係る診断基準及び重症度分類等について」（平成27年５月13日健発0513第１号健康局長通知）を参照の上、

ご記入ください。

・審査のため、検査結果等について別途提出をお願いすることがあります。